

# 慢性白血病患者、悩み語る



患者らの質問に答える国立病院機構熊本医療センターの日高道弘・血液内科部長＝熊本市中央区桜町

## 熊本初の交流会に50人

## 医師が最新治療説明

慢性骨髄性白血病（CML）患者らの交流会が熊本市中心部の市民会館崇城大学ホールで13日にあり、約50人が参加した。専門医師

の講演を聴き、患者同士のフリートークで苦労や悩みを共有した。

CML患者・家族の会「いずみの会」（田村英人

代表、神奈川県相模原市）などが主催。同会は年5、6回、全国各地で交流会を開いており、熊本では初めての開催という。CMLの発症は10万人に1〜2人とされる。近年は薬の開発が進み、服用を続ければ日常生活に支障のない状態まで回復する人がいる一方、高額な医療費負担や副作用に悩む人も多いという。

交流会では、国立病院機構熊本医療センターの日高道弘・血液内科部長が講演し、最新の治療法などを説明。患者同士でグループに分かれ、悩みを打ち明けたら、治療法について話し合ったりした。

2年前に発症したという宮崎市の柴美穂さん(23)は現在では体調は安定しているが、薬代が2カ月ごとに4万6千円かかり、負担を感じているという。「患者数が少ないので、交流会は悩みや情報を共有できる貴重な存在です」と話した。

(河原一郎)